第 5 回　松戸市新焼却施設処理方式等検討会

＜概要＞

開 催 日	令和 6 年 7 月 12 日（金）
開催時間	午後 1 時 42 分から午後 2 時 42 分まで
開催場所	和名ケ谷クリーンセンター　大会議室
委　　員	北野幸樹、寺内清修、八鍬浩、門倉隆、金子実
事 務 局	松戸市　環境部　加藤部長 清掃施設整備課　冨樫課長、児山課長補佐、内田主任主事、正村主事 八千代エンジニヤリング株式会社 5 名
傍　　聴	なし
会議次第	１．開会 ２．議題 （１）検討会のスケジュールについて （２）施設整備調査報告書について （３）PFI 等導入可能性調査について ３．その他 ４．閉会
配付資料	・資料 1　松戸市新焼却施設処理方式等検討会の開催目的及びスケジュール ・資料 2　(仮称)松戸市エネルギー回収型廃棄物処理施設　施設整備調査　報告書（素案） ・資料 3　ＰＦＩ等導入可能性調査について

１．開会

（事務局より開会）

２．議題

（１）検討会のスケジュールについて

事務局　　（資料 1 により説明）

委員　　（特に質疑なし）

（２）施設整備調査報告書について

事務局　　（資料 2 により説明）

委員　　プラスチック類の分別収集は実施するのか。

事務局　　地域計画上は経過措置対象であることから、プラスチック類の分別収集は強制ではないものの、今後の状況を見つつ検討していきたいと考えている。

委員　　ごみピット容量は、ごみ量を見直していることから、当該容量も変更となる可能性があることに留意する必要がある。

委員　　市場調査では、各プラントメーカーからは流動床式焼却方式や、シャフト炉式ガス化溶融方式、流動床式ガス化溶融方式の回答はなかったのか。

事務局　　回答のあったプラントメーカーは全てストーカ式焼却方式であった。

委員　　排ガスの公害防止基準値は、近隣自治体の基準値も参考に設定しているのか。

事務局　　直近 10 年程度の県内施設での基準値は確認しており、窒素酸化物及びダイオキシン類は、本施設よりも厳しい基準値で設定している施設もあった。

委員　　近隣の施設が本施設よりも厳しい基準値で設定していた場合、市民に与える印象を考慮する必要はないか。

事務局　　近年の技術動向や地元住民との協議を踏まえたうえで最終的な基準値を設定していきたいと考えている。

委員　　健康被害のない十分厳しい基準値を設定していることから、あまり厳しくしすぎると用役費が高くなってしまうことに留意する必要がある。

委員　　余熱利用は、売電だけではなく庁舎へ送電することでカーボンフリーの電力使用などを対外的にアピールできるのではと考える。

事務局　　現在稼働している施設では、電力を本庁へ送電していることから、引き続き同じ形態をしていきたいと考えており、ゼロカーボン担当の部署とも連携して検討していきたいと考えている。

委員　　渋滞緩和はどのように考えているのか。

事務局　　自己搬入はそこまでないと想定しているが、ごみ量の整理終了後に台数等を検討する予定である。

委員　　耐震基準や防災機能は、能登半島での地震などもあり、非常に注目される内容であると考えるため、引き続き検討をお願いしたい。

委員　　SDGs のロゴ表記は、表紙だけでなく、該当箇所にも記載するのはどうか。

事務局　　デザインにも配慮したかたちで検討していく。
委員　　パッカー車は 2 回計量か。
事務局　　現状は委託車 1 回計量、許可業車 2 回計量しているが、現状の運用を踏まえて検討していく。
委員　　環境学習機能では、見学対象設備例として展示・学習コーナー、研修室が記載されているが、違和感がある。展示・学習コーナーや研修室は、子供から大人まで幅広い学習機能として付加される機能であると考えるため、空間の整備と見学場所の整備の違いを整理しておく必要がある。

（3）PFI 等導入可能性調査について
事務局　　（資料 3 により説明）
委員　　施設規模は見直し中であることから、本調査についても表現の統一を図ること。

3．その他
（松戸市環境部長あいさつ）

4．閉会